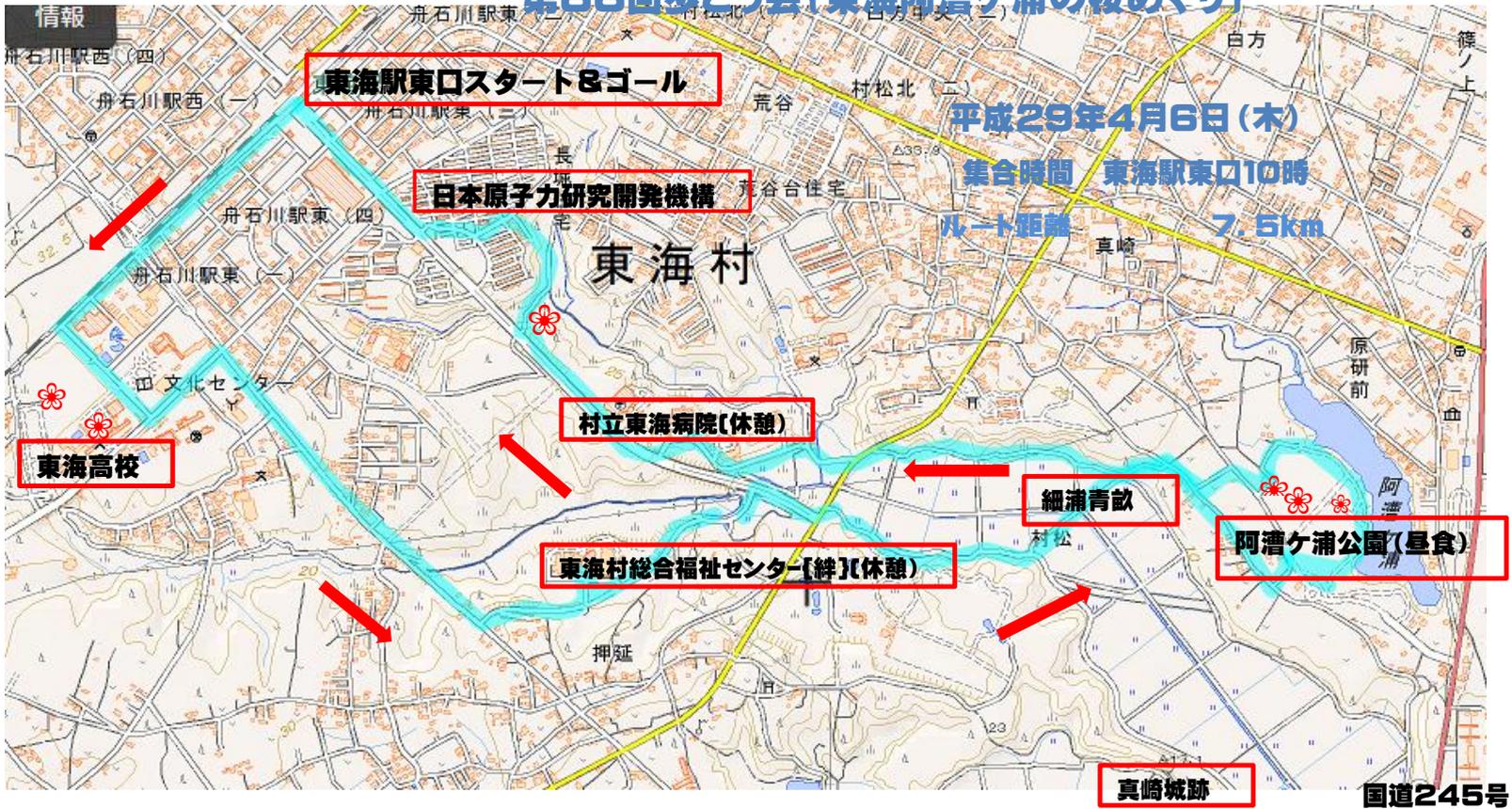


第68回歩こう会(東海阿漕ヶ浦の桜めぐり)



・細浦青畝(ほそうせいほ)

古代・中世の真崎浦や細浦は、重要な水上交通路であった。半島の先端に真崎城(館)があったと云われ、佐竹氏の一族の真崎氏が築城したと云われている。連歌師の飯尾宗祇は応仁2年(1468)に真崎浦や細浦を訪れて、内海の風景などを詠みました。

細浦・真崎浦の干拓事業は、様々な要因による中断、再開を繰り返し昭和13年(1938年)に完成しました。

・阿漕ヶ浦(あこぎがうら)

阿漕ヶ浦は、大神宮の神池として神聖化されており、魚は大神宮に供える魚であり、取ってはいけないとされていた。また池の底で大甕泉ヶ森の霊泉に通じていると云われている。以前は岸辺に鳥居も建てられていた。民話の片目魚伝説は有名です。

阿漕ヶ浦公園として昭和49年(1974年)の茨城国体ホッケー会場のため整備された。約200本のソメイヨシノが植えられ4月上旬には「東海まつり」が開催され、多くの人を訪れる。伊勢湾にある阿漕ヶ浦にちなんで名付けられたとされている。